

平成 29 年度かながわ部活ドリーム大賞 表彰式

この表彰は、部活動活性化推進計画「かながわ部活ドリームプラン 21 versionIII」に基づき、部活動の活性化につながる取組を積極的に行った団体・個人（県内中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校、または、部（同好会を含む）及び、それに関係する団体並びに個人）に対し、神奈川県教育委員会教育長表彰を授与するもので、平成 19 年度に創設され、今年度で 11 回目を迎えました。

主 催 神奈川県教育委員会

開催日時 平成 30 年 2 月 3 日 土曜日 14 時 30 分から 16 時 00 分

会 場 総合教育センター（善行庁舎）大講堂



各賞の紹介

グランプリ（最優秀賞） 1 校

総合的に最も優れた成果や実績をあげた学校

受賞団体名	功績・実績等
県立厚木東高等学校	男子バスケットボール部の目覚ましい活躍が、部員・保護者・生徒・職員・地域の全てに多くの勇気と感動を与え、最後まであきらめない姿勢の大切さを改めて感じさせた。また、部活動を支える生徒の献身的な取組や、茶道部や華道部の部活動インストラクターの長期にわたる誠実で継続的な指導が生徒主体の活動を支えた。



準グランプリ（優秀賞） 2校

総合的に優れた成果や実績をあげた学校

受賞団体名	功績・実績等
県立弥栄高等学校	全校で部活動の情報交換や大会報告、他の部活動の試合への応援などで交流を深め、お互いに切磋琢磨し、部活動に取り組みやすい環境づくりを心掛けた。朝の時間に学校や近隣の清掃活動やあいさつ運動にも取り組み、その行動は近隣の小・中学生の模範となった。日頃の地道な活動はもとより、小・中学校との交流や地域のイベントに多数参加し、地域に貢献しながら、才能を高めようとした。
受賞団体名	功績・実績等
県立相模原中等教育学校	前期課程生と後期課程生が合同で活動し、時間と場所の制約がある中で、練習方法を工夫することや、後期課程生が前期課程生に対して、技術指導に留まらず、学習面から生活面に至るまで指導するなど、生徒が主体的に活動した。



かながわ部活チャレンジ賞 3校

部活動への参加促進を図り、学校全体及び男女それぞれの入部率が前年度と比較し、向上幅において上位にある学校

No	受賞団体名	功績・実績等
1	県立神奈川総合高等学校	多方面に興味・関心の高い生徒が多く在籍しており、複数の部活動に所属する、いわゆる「兼部」の生徒が多い。吹奏楽部は、地域のイベントに参加したり、近隣の小学校で演奏したりと地道な活動を通して地域に貢献した。美術部、吹奏楽部、放送部、ミュージカル&演劇部等がコンクールなどに多く参加し、関東大会や全国大会などで良い結果を残した。ISAK（国際支援）が近隣の小学校と協力してボランティア活動をしたり、ESSが見童を招いてイングリッシュキャンプを実施したり、地域社会とのふれあいを通して、自己有用感を持つことのできる取組をした。
2	県立高浜高等学校	学校紹介ビデオにより部活動の活動風景がより具体的に把握でき、中学生が入学前からこの部活に入りたいと思って入学して来るようになった。部ごとに保育園、小学校、中学校などの行事や地域のボランティア活動に参加し、各方面から高い評価を得ており、本校の掲げる、人とのつながりを大切にする「福祉の心」を育てる場ともなった。
3	県立座間総合高等学校	近隣中学校との部活動交流事業を実施している部活動があることや、中学生対象の学校説明会における部活動の説明や部活動体験会も行った。各部活動の集合写真を印刷して、部活動に入ろうというPR紙を生徒会室付近や体育館付近に掲示をした。ソフトボール部は関東大会出場を果たし、硬式野球部、卓球部、吹奏楽部は地区大会を突破し、県大会に出場するなど、部活動の成果に伴い、学校全体で応援する雰囲気が醸成されるとともに、学校全体が活性化した。

かながわ部活アドバンス賞 3校

部活動への参加促進を図り、学校全体及び男女それぞれの入部率が継続して上位にある学校

No	受賞団体名	功績・実績等
1	県立横浜翠嵐高等学校	体育館を会場とし、新入生全員を対象として、ほぼ全部の部活動および部活動的委員会所属の上級生が、趣向を凝らして各部の説明と勧誘活動を行った。学校は勉強だけをするとこころではなく、部活動や生徒会活動（行事）にもしっかりと取り組むものだという考え方を持つように折に触れ指導した。運動部・文化部ともに、活動休止日を設けることで、勉強と部活動を両立できると生徒から好感を持って受け止められ、安心して部活動に入部できる環境作りにつながった。
2	県立横浜平沼高等学校	部ごとに新入生向けの案内を書き「部活に入ろう」というタイトルのプリントを入学予定者説明会で配付している。これは平成25年度からの取組で、ポイントは、勧誘ではなく、自分たちが入部している部への思いを書くというものである。生徒会執行部では、各部より部活動の思いを文章にして集め冊子を作った。それを新入生歓迎会の前に新入生に配付し、部活動への関心を高め、新入生歓迎会での各部の部活動勧誘パフォーマンスへとつなげた。生徒昇降口にあるホワイトボードに各部活動の公式戦の日程や結果を掲載することによって校内での部活動への関心を高めた。
3	県立川和高等学校	学校全体として、高い次元の文武両道を目指していくことについてのコンセンサスが校長を中心に顧問間でしっかりと確認できており、各教員はこの運営方針を理解し、部活動と学習指導を頑張る雰囲気が出てきている。また生徒もそのことを理解して活動し、部活動だけでなく学習や学校生活にも前向きに取り組むことを実行した。これらのことが中学校にも伝わり、意識の高い生徒が集まることで学校生活のすべてが高いレベルに維持できた。

かながわ部活スポーツ賞 5団体

学校全体の全国大会出場数において上位の学校、学校体育団体主催の全国大会につながる県大会で初優勝、もしくは、長期間優勝から遠ざかっていて復活優勝した団体、これらに値する実績をあげた団体

No	受賞団体名	功績・実績等
1	県立横浜南陵高等学校 弓道部	○全国高等学校総合体育大会県予選会初優勝（団体戦・個人戦） 前年度の全国選抜大会県予選会では3位入賞で終わり、全国への切符を逃した。そこから、悔しさを忘れず日々の鍛錬に励んできた。練習の量だけではなく、自分自身と向き合い客観的に自分を捉え、自信をもって大会に臨めるように取り組んだ。学校生活においても、学業成績優良者や生徒会各委員の委員長を務めるなど、文武両道に取り組み、また弓道から学んだ礼儀・作法や物事に取り組む姿勢は他生徒の模範となった。
2	県立弥栄高等学校	○全国高等学校総合体育大会県予選会優勝（5年ぶり） 男子バレーボール部 ○関東高等学校登山大会出場 ワンダーフォーゲル部 ○関東高等学校剣道大会出場 剣道部 ○関東高等学校陸上競技大会出場 陸上競技部 多くの部活動で近隣の小・中学校との交流を実施した。例えば陸上競技部では近隣小学校に出向き、陸上競技会に出場する小学生に指導を実施し、指導するという立場を通して、技術や方法の振り返りを行った。部活動毎に目標を決め日々練習に取り組み、男子バレーボール部は県大会で5年ぶりの復活優勝を果たした。どの部活動においても、文武両道をモットーに学校生活に取り組んだ。
3	県立厚木東高等学校 男子バスケット ボール部	○神奈川県高等学校秋季バスケットボール大会初優勝 （全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会に出場） 日々練習に励み、全国高校総体や関東大会への出場を重ねてきたが、秋季大会での優勝は逃してきた。そこで、生徒会、職員、顧問、部員、保護者、学校、地域が一体となって活動をサポートし、選手が練習に打ち込む環境と応援の雰囲気づくりを行った。選手の努力や、学校全体の最後まであきらめない姿勢が実を結び、悲願の初優勝を果たした。
4	県立厚木北高等学校	○全国高等学校総合体育大会出場 陸上競技部 ○全国高校遠的弓道大会出場 弓道部 ○全国高等学校ゴルフ選手権出場 ゴルフ部 本校のゴルフ部は、地域のゴルフ場から練習場としての利用や、様々な環境面で地域の協力を得ている。コーチの「うまい選手より、まずは良い選手に」という指導方針もこのような実績につながった。弓道部は、高校生になってから競技を始めた生徒も多い中、一人ひとりが競技に高い意識を持ち、日頃からチームワークを大切に活動してきた結果、今年度の実績につながった。陸上競技部は一人ひとりの能力を最大限に発揮できるよう、様々なトレーニングメニューを工夫し、部員、顧問が一体となって練習に取り組んできた。
5	川崎市立橘高等学校 定時制	○全国高等学校定時制通信制体育大会出場 男子バレーボール部 バドミントン部 陸上競技部 卓球部 それぞれの部の練習内容の工夫や時間確保の努力だけでなく、学校全体で取り組む空気を醸成するため、部活動結果報告の全校集会を持ったり、学校内に掲示する掲示物また部活動新聞なども多く発行しており、部活動への加入率を向上させた。学校内外への部活動の結果の広報活動は、選手の活動意欲を高め、部活動加入率の向上は本校運動部の基礎的レベルを底上げした。

かながわ部活ジュニアスポーツ賞 3 団体

学校全体の運動部活動が特に活発な学校、運動部で総合的に優れた成果や実績をあげた学校、これらに値する実績をあげた学校、これらに値する実績をあげた学校

No	受賞団体名	功績・実績等
1	横浜市立六角橋中学校	○全国中学校剣道大会第3位 剣道部 運動系部活動の加入率が8割を超え、多くの部が大会参加実績を誇る学校である。運動系部活動が盛んであり、部の入部率も高く、地域や保護者からの信頼を受け、それに応えようとする素直で真摯な子どもたちの努力が実績となって結果を出した。剣道部や柔道部においては、関東大会や全国大会に出場する等の伝統を誇り、卒業生はオリンピックに出場する等の世界的な実績を誇る。
2	川崎市立塚越中学校 陸上競技部	○全国中学校体育大会出場 ○ジュニアオリンピック男子110mH優勝、女子100mH優勝 練習に励み、朝や放課後の活動を熱心に行ってきた。個人の競技という意識ではなく「ベストを目指す仲間」として成長しており、その姿は他の部活動の模範ともなった。優秀な成績を取めていることは勿論だが、普段の学校生活もしっかりとしており、行事や授業の中でも活躍している姿は、「学業・部活」を両立させる良き見本となった。
3	アレセア湘南中学校 男子バスケット ボール部	○神奈川県中学校バスケットボール大会準優勝 ○関東中学校バスケットボール大会優勝 ○全国中学校バスケットボール大会出場 放課後の練習時間が限られている中、始業前の朝練習で基礎的な練習に取り組むようにした。週末には実践的な試合感覚がつかめるように、積極的に大会に参加したり、練習試合を多く組むようにした。男子バスケットボール部の活躍は学校全体に活気をもたらした。

かながわ部活文化賞 5 団体

学校全体の文化部活動が特に活発であり、本県の文化芸術全般への貢献が大きいと認められる学校、各種大会やコンクールで全国的に注目される著しい成果があった団体

No	受賞団体名	功績・実績等
1	県立横浜翠嵐高等学校 文芸部	○第12回全国高校生短歌大会短歌甲子園出場 石川啄木賞受賞 ○第7回枚水短歌甲子園出場 優勝受賞 ○第32回全国高等学校文芸コンクール 短歌部門入選(個人賞) 日々の部活動での歌会や句会を行うこと、また全校生徒参加型の歌会を開催したり、県内の高校と歌会や共同で部誌を作成したりと、積極的に交流をし短歌や俳句などの面白さや奥深さを一緒に味わおうとする活動をした。本年度からはインストラクターとして俳人の講師を迎え、俳句にも積極的に取り組んだ。
2	県立弥栄高等学校	○吹奏楽部：第23回日本管楽合奏コンテスト全国大会「優秀賞」等 ○書道部：神奈川県高等学校総合文化祭第53回高等学校書道展「教育長賞」・「書道専門部会長賞」・「団体優秀賞」、第41回全国高等学校総合文化祭宮城大会書道部門参加等 ○サイエンス部：第41回全国高等学校総合文化祭 自然科学部門 ポスター発表部門「奨励賞」等 ○美術部：第6回東アジア高校生国際公募展「奨励賞」、第11回アジア国際子ども映画祭「関東ブロック代表」等 日頃の地道な活動はもとより、小・中学校との交流や地域のイベントに多数参加し、地域に貢献しながら、才能を高めようとしている。どの部も地域の自治会連合会のイベントに複数回参加の要請を受けるとともに、生徒会本部役員の生徒がイベント進行役を担うよう依頼された。活動の成果を発表する、競い合う機会として、校内発表会、大会やコンクールにも積極的に参加した。またその結果を振り返り、日々の新たな目標を設定して活動した。
3	県立相模原中等 教育学校 クラシックギター部	○全国学校ギター合奏コンクール2017 最優秀賞(連続3回目) 他の学校と合同練習会を実施した。前期課程生と後期課程生が合同で100名を超える部員数で活動している。時間と場所の制約がある中で、後期課程生が前期課程生に対し、楽器演奏の技術指導に留まらず、学習面から生活面に至るまで指導するなど、生徒が主体的に活動しており、本校を代表する部活動である。
4	横浜市立 横浜サイエンス フロンティア高等学校 文芸部	○第41回全国高等学校総合文化祭文芸部誌部門出場(神奈川県代表、スタッフが選ぶベスト部誌受賞) ○第20回俳句甲子園全国大会出場(横浜会場代表、個人の部入賞) 生徒の自由な創作活動を奨励したことで、それぞれの個性が生きた部誌となった。また、創作活動だけではなく、詩の朗読練習、短歌・俳句の合評会、研究発表、他校との練習試合など幅広い分野で非常に熱心に活動した。日々の学習活動においても、真剣に取り組む様子が見受けられ、あらゆる学校生活の局面で涵養された豊かな情操が作品に結実した。
5	県高等学校文化連盟 囲碁専門部会 ・県立港北高等学校 囲碁将棋部 ・県立柏陽高等学校 囲碁将棋部 ・桐蔭学園高等学校 囲碁部	第41回全国高等学校総合文化祭囲碁部門神奈川県代表選考会を経て、全国高等学校総合文化祭への出場権を勝ち取った後も校内での練習を重ね、大会に臨み、全国高等学校総合文化祭において優勝を果たし、文部科学大臣賞を受賞した。

かながわ部活ジュニア文化賞 3 団体

神奈川県中学校文化連盟芸術祭へ参加し、学校全体の文化活動が特に活発な学校、全国中学校総合文化祭へ参加し、本県の文化芸術全般への貢献が大きいと認められる学校、これらに値する実績をあげた学校

No	受賞団体名	功績・実績等
1	横浜市立希望が丘中学校 演劇部	関東大会にて2年連続で金賞を受賞し、2年連続で全国中学校総合文化祭舞台発表部門に参加した。昨年度は「うさみくんのお姉ちゃん」、今年度は「もしイタ～もし野球部のマネージャーが青森のイタコを呼んだら」という演目を上演し、全国の皆様から賞賛を受けた。日頃から部員同士切磋琢磨し質の高い演劇を作り上げることに努力を惜しまずに主体的に活動している。地域行事にも積極的に参加し、定期公演でも地域の皆さんからもたくさんの来場をいただくなど信頼を得た。
2	横浜市立丸山台中学校 吹奏楽部	○日本ジュニア管打楽器コンクール本選会（金管八重奏）出演 ○第66回神奈川県吹奏楽コンクール（中学校A部門）金賞受賞 神奈川県代表選出 日々の通常の部活動において、効率的かつ効果的に練習に取り組んだ。各種コンクールでは長年にわたり常に上位入賞を果たし、数々の実績を残すなど、高い評価を得た。一方で、学校の地域貢献活動にも熱心に取り組み、コンクールでの上位入賞を間近で聴くことができると、地域住民や自治体からも高い評価を得られた。
3	横浜市立笹下中学校 ジャズ部	全国中学校総合文化祭において、開会式で演奏した。また、東日本中学校代表として、ハママツ・ジャズ・ウィーク「スチューデント ジャズ フェスティバル」に出演した。他に仙台市で開催された「定禅寺 ストリート ジャズ フェスティバル」にも依頼を受け、出演した。日々の練習に熱心に参加し、技術の向上に努めた。また、部として校内の清掃活動にも自発的に取り組み、他の生徒の模範となった。

かながわ部活アクティブ賞 8 団体

活動実績が学校の特色に繋がる顕著な取組やその他表彰に値すると認められる部（同好会を含む）、または校内や地域において地道に活動し、他の部活動・生徒の模範となるような活動をした部（同好会を含む）

No	受賞団体名	功績・実績等
1	県立横浜旭陵高等学校 吹奏楽部	地域ケアプラザ、地域自治会、近隣小学校等での依頼演奏に取り組み、上白根中学校とも連携しながら演奏をしている。年2回の校内における文化活動団体の発表会にて演奏し、夏のステージでは立ち見客が出る盛況で、学校広報に貢献した。本校は「人と社会と未来につながる力」を身に付けさせることを目標に教育活動が行われている。吹奏楽部は少人数ではあるが、生徒たちの自主性、積極性が「つながる力」を体現している部活動である。吹奏楽部生徒と部活動顧問が互いに手を携え、日々の練習から校外での様々な活動に至るまで、本校の他の生徒に対する模範となった。
2	県立磯子高等学校 野球部	部のモットーは「感謝の心と謙虚な姿勢」。創部以来活発な活動を重ね、本校部活動の活性化に大変貢献した。日々頑張る野球部を見て、大会の際には吹奏楽部やダンス部が率先して応援に向き、学校全体の連帯感を作り出した。日々の練習はもちろんであるが、登下校のゴミ拾いを率先して行い、夏の大会時には、グラウンドに面した近隣住民が手製の横断幕をベランダに掲げてくれるなど地域住民の方々からも認められ応援された。
3	県立瀬谷西高等学校 陸上競技部	学校全体の部活動活性化、また頑張る部活動が増えるよう、冬場にトレーニングメニュー中心の合同練習を陸上競技部主催で実施している。参加する部活動は6～7部活動で、陸上競技部員がトレーニングのやり方、ポイントを教えるなど、他の部員をリードした。陸上競技部の活躍する姿をみて、他の部活動のモチベーションを高めている。どの部活動も陸上競技部員の学校生活の過ごし方、練習での取り組み、試合成績をお手本にして、またそれを超えようと努力することで学校全体が活気に満ちた雰囲気になるための大きな力となった。
4	県立相模原中等 教育学校 吹奏楽部	自分たちの練習を自分たちで計画し、他の部活動との活動場所の調整や顧問との連絡をきちんと行いながら練習に取り組むほか、前期課程生への技術指導にもまじめに根気強く取り組んだ。地域の特別養護老人ホームと交流を持ち、定期的に訪問演奏を行っている。休日に部活動を行った際には、学校や使用施設の清掃活動を自主的に行った。
5	県立鶴見養護学校 ダンス同好会	今年度は「第37回バトントワリング神奈川県大会」に特別支援学校として初めて出場した。場所や時間など様々な制約のある中での練習は非常に大変だったが、ダンスの創作過程で自己表現の楽しさを感じ、自発的に休み時間等に練習を重ねる姿が見られたり、お互いに励ましあい協力して頑張れたことで、仲間を想う意識が生まれたりするなど日常生活にも大いに活かされた。ダンス同好会が同年齢の生徒と同じ場で発表し合うことができたことは、共生社会に向けたインクルーシブ教育の推進にも寄与した。

6	県立茅ヶ崎養護学校 アートオールスターズ 同好会	主に茅ヶ崎市美術館で毎年開催される寒川・茅ヶ崎地区の高校生の美術展「アートオールスターズ展」に向けて出品することを第一の目標に掲げているが、出品だけにとどまらず、展覧会の幹事校に立候補し、展覧会の運営を責任感をもって務めた。アート制作を通しての自己表現を行う過程で生徒自身の内面の成長が図られ、同好会の活動時以外でも、他の生徒の模範となるような協調性、全体調整力、リーダーシップ等が発揮された。
7	県立座間養護学校 バスケットボール部	座間養護学校は、有馬分教室と相模向陽館分教室の2つの分教室を設置している。平成29年度当初、本校及び相模向陽館分教室にはバスケットボール部があるが、有馬分教室には設置されていなかった。有馬分教室バスケットボール部設立を熱望する生徒たちが本校や相模向陽館分教室の部員とともに、生徒同士が協力してそれぞれの担任チームへの働きかけを行い、有馬分教室バスケットボール部が設置された。特別支援学校体育連盟主催の夏季大会には、新しい座間養護学校バスケットボール部として出場し、強豪校に勝利するなど、3年生にとって心に残る高校生活最後の夏となった。
8	中央大学附属横浜 高等学校 バトン部	1980年代の創部以来、バトントワーリング全国大会出場を目指して活動を続けてきたが、今日に至るまで、県大会への出場が途切れたり、高校2年生が1人しかいない時代もあった。バトンを高く投げられたり、全体演技に必要な体育館全面を使用した活動がほとんどできない中、夏休みや祝日は横浜市のスポーツセンターを借りて、練習を行うこともあったが、それぞれが支えあいながら、県大会と関東大会に出場を果たした。その結果、創部以来初めて、金賞を受賞し、全国大会への推薦を得ることができた。また、今年度は地域の山田富士公園で行われた、さくら祭りにも参加をし、地域との連携も図っていく体制を整えた。

かながわ部活メンバーシップ賞 7名

部活動のメンバーとして地道に努力し活動を継続、他の模範となる生徒に贈る「君こそ主役」賞

No	学校名	部名等	受賞者名	功績・実績等
1	県立神奈川工業 高等学校定時制	陸上競技部	仲村 仁希	当初は陸上同好会として活動をはじめ、2年次には部員が1人となっても練習を欠かさず行い、3年次に新入部員を迎え、4年次には陸上競技部への昇格と最も活気ある部活動に成長させた。4年次には本校定時制として初の全国大会出場を果たし、準決勝までコマを進めた。定時制で練習時間が限られる中、少人数で地道に活動を続け、自主的な練習実施や後輩への指導、生活態度を大切にする取り組みを行い、現在の陸上競技部の土台を築いた。
2	県立磯子工業高等学校 定時制	バドミントン部	米津 秀弥	高校入学からはじめた部活動のバドミントンを休むことなく活動し、限られた条件のもとで着実に力をつけて4年次には神奈川県内の団体代表選手に選ばれ、全国第3位という成果を残した。部活動では部長を務め他の部員を牽引し、本校の模範的生徒の一人である。定時制通信制生活体験発表会や関東地区定時制通信制英語レシテーションコンテストに参加するなど、学校外の諸活動にも積極的に参加した。
3	県立横浜桜陽高等学校	柔道部	池原 詩野	長年、柔道部は部員が入らず、本生徒が入学した時には休部状態であった。本生徒の熱意によって柔道部の活動を同好会からスタートし、日々の練習を怠ることなく積み重ね、翌年には部活動として認可された。1、2年次の時は、部員が1名でありながら、週2日の朝練を含む部活動に地道に取り組んだ。3年次に男子部員2名と女子マネージャー1名が入部し、部活動引退後も自分の進路と並行して後輩の指導に熱心に取り組んだ。3年間の活動を通して、部活動だけでなく学業でも努力を重ね、他の生徒の模範となった。

4	県立多摩高等学校	放送特別委員会	小田島 舞	毎日の発声練習や滑舌練習に真剣に取り組み、「アナウンス長」として、部員一人ひとりの練習を見て読み方の改善点を伝えたり原稿作成の助言をするなど丁寧な指導をした。学校説明会にて司会を務め、アナウンスの実力の高さを発揮し、部活動が盛んである本校の校風を強い説得力を持って参加者に示した。他人の意見にしっかり耳を傾ける真摯な姿勢から部員や顧問の厚い信頼を得ており、実力のみだけでなく人柄や部活動のメンバーとしての自覚においても他の生徒の模範となった。
5	県立平塚商業高等学校 定時制	卓球部	志澤 喜代美	卓球部は昨年度4名、今年度1名と少ない部員ながら日々地道な活動を行っている。部員不足から実践的な練習が十分にできない状況ではあるが、全日制との合同練習を含め基本練習を黙々と重ねてきた。そのひたむきな練習への姿勢は、他の部活動の部員たちの模範となった。日ごろからの地道な努力を重ねた結果、平成29年度全国高等学校定時制通信制体育大会第50回卓球大会への出場権を獲得し、その戦いぶりは大会関係者からも大きな賞賛を得た。
6	県立湘南高等学校	フェンシング部	市川 万里子	向上心、克己心を持ち昼休み等のわずかな時間でも練習やトレーニングに励んだ。高校レベルでは互角の力を持つ選手があまりいないため、大学のフェンシング部に出稽古に行き、そこでの練習方法を学び、高校での練習方法にいかし、本校のフェンシング部全体のレベルアップにつなげた。個人としての技術向上だけでなく、部全員での競技力の向上を常に意識し、フェンシング部全体を牽引する原動力となった。試合では模範的な試合運びやマナーが確立しており、後輩たちにとって、よきロールモデルとなった。
7	県立大和南高等学校	吹奏楽部	松本 羽音	コンクールや他校と合同の演奏会に参加したり、地域との交流を深めるために老人ホームやコミュニティーセンター、小学校で演奏した。活躍の場を広げられるよう、情報収集をし、積極的に演奏する機会をつくった。よりよい学校づくりのために、行事等で演奏をするだけでなく、自主的に清掃活動を行った。日頃から、小さなことでも学校に貢献できることはないかと考え、行動をした。常に相手の立場に立って行動していたことは、他の生徒の模範となった。

かながわ部活キャプテン賞 8名

優れたリーダーシップを発揮したキャプテン（部長）に贈る「ナイスキャプテン賞」

No	学校名	部名等	受賞者名	功績・実績等
1	県立平塚商業高等学校	女子 バレーボール部	長谷川 楓	平塚ろう学校高等部と合同チームを組み、放課後の練習を含め、日々合同練習をしてきた。当初、コミュニケーションがうまくとれなかったが、キャプテンとして率先して手話を覚え、両チームの架け橋となった。日々の練習や試合の際にも手話により、コミュニケーションをとるなど、日頃より強い自覚と責任感を持ちチームをまとめた。コミュニケーションの手段としての手話は、ろう学校の仲間から学び、こつこつと努力した。

2	県立厚木東高等学校	男子バスケットボール部	佐野 龍之介	部員全員を互いに励まし合いながら目標達成のために練習を行い、顧問と共にチームを全国大会出場に導いた。キャプテンとしての指導力はなく、掲げた目標どおり、部員全員が上達し、その支えとなった。人物としても非常に優れており、部員だけでなく多くの生徒、職員、地域、保護者に信頼されている。強いリーダーシップは部活動だけでなく、学級や学校全体にも良い影響を及ぼし、様々な活動で見本となる行動を見せた。
3	県立厚木北高等学校	女子バレーボール部	遠藤 菜々	常に元気よく声を出し、チームをまとめることに一生懸命努力し、自らの技術を磨くことにも努力し、他の選手の見本となるなどチーム全体の技術の向上に努めた。何事にも全力で前向きに取り組む姿勢は、部員全員に波及し、一生懸命取り組もうという雰囲気となっていた。少ない部員ではあるが、一人ひとりの力を結集するために、個々の良い面をしっかりと把握し、最大限に伸ばすよう努力した。礼儀正しく周りの人に気配りができる姿は級友からも信頼された。
4	県立厚木北高等学校	弓道部	平松 優	周囲を和ませ気分をリラックスさせるなど、部員たちが持つ力を最大限に発揮できる環境作りに貢献した。常に冷静に物事を判断し、周りへの気配りを怠らない姿は部員の手本となった。技術向上のために自ら率先して練習内容の分析を行い、他の部員や部活動インストラクターとのコミュニケーションを密にとり、部活動のレベルアップを図った。大変穏やかな性格で周りにも気配りができ、級友からの信頼も厚い。常に部活動の良き雰囲気作りに気を配る姿は、他の部員たちの手本となった。
5	県立大和南高等学校	剣道部	大越 士夢	他の部員の誰よりも早くから剣道場に入り、率先して活動してきた。剣道部では心の修行のため、地域ボランティアにも積極的に参加し活動した。大和高齢者施設南風夏祭りの行事支援の活動にも参加し、主将として部員をよくまとめた。他の仲間には懇切丁寧にあきらめず熱心にアドバイスをしていた。何よりも率先して部を牽引してきたリーダー性がとても強く、正義感も強い。堅実で何事にも努力を惜しまず、文武両道であり、他の部員からの信望も篤い。
6	県立伊勢原高等学校	ダンス同好会	森谷 菜里	大会に出場することだけを目指とはせず、上位の成績を残すことを目標に取り組んできた。指導者がいない中で、同好会の規律を立て直すことから始め、挨拶の励行、日頃の授業を大切にする姿勢等、技術面だけでなく生活面も正すことを呼びかけながら、メンバーを引っ張り導いてきた。非常に真面目で何事にも真摯に取り組む姿が下級生にとって模範となった。ダンス同好会のイメージアップに大いに貢献した。
7	県立城山高等学校	野球部	上田 雅隆	主将として部員全員の意識を統一するため時に厳しい言葉かけでチームをまとめた。他人に厳しく接する以上に自分に厳しい性格のため、チームメイトからは絶大な信頼を得た。『元気で、明るく、本気で全国制覇』というモットーを自ら掲げ、自分自身が常に明るく前向きに野球に取り組み、チームの雰囲気を明るくした。彼自身の雰囲気がチームに影響を与え、試合や練習の中でどんなに辛く苦しい場面でもチームが暗くなることはなく、明るく前向きに乗り越えることができた。
8	横浜市立戸塚高等学校 定時制	女子バレーボール部	與那嶺 未来	4月当初は3人しか部員がいなかったが、大会出場をかけて多くの生徒に声をかける中で、彼女の明るい性格に影響を受け、徐々に活動に参加する生徒が増え、毎日の練習に意欲的に取り組むようになり、大会に出場することができた。日頃の学校生活にも積極的に取り組み、勉強、部活動双方に対して熱心に取り組んだ。部員だけでなく、他の生徒や先生方からの信頼も厚く、大会に向けて一生懸命に活動を重ねた。

かながわ部活マネージャー賞 4団体から6名

部やメンバーのために優れた役割を果たしたマネージャーに贈る「グッドマネージャー」賞

No	学校名	部名等	受賞者名	功績・実績等
1	県立多摩高等学校	水泳部	深山 友香	競泳の練習においては、サークルの管理を徹底し、部員がサークルに従って泳ぐことができるようにした。部員が増加傾向にあり、またさらに欠けていた部活をうまくまとめあげ、平日の少ない活動時間の中で効率よく練習できるように工夫した。また、夏季休業中は活動時間の工夫をするなど部員の集中力を切らさないよう練習時間の設定に努めた。
2	県立相模原総合高等学校	野球部	宮崎 千尋 津村 未来	常に部員とともに行動し、献身的に部を支えることによって、部の連帯感を強固なものとした。プレイを影から支えるアナウンスや公式記録、スコア記入といった仕事に大きな責任感を持って取り組み、県内大会のみならず関東大会等でも活躍する姿は、部全体に大きな活気をもたらした。毎月作成し続けた野球部新聞には、生徒の日ごろの活動が、活き活きと表現されており、保護者のみならず、OBや全職員にも配付することで、多くの方々に、その活動を理解し協力を得る原動力となった。
3	県立大和南高等学校	陸上競技部	河野 沙耶 谷 美里	マネージャーとしての責務を果たすだけでなく、常にチームがよりよい方向に向かうように、選手以上に陸上競技のこと、部活動のことを知ろうと努力を惜しまなかった。また、身につけた知識や技術を率先垂範することで部員に伝えていった。どの選手よりも陸上競技部に対して高い意識を持ち、チームメイトのために尽力し、その結果として初のトラック種目関東大会出場者を出すことができた。
4	県立伊勢原高等学校	女子バレーボール部	桑原 美空	日頃の練習を始め、合宿や試合など部の活動全般に渡り、きめ細やかな配慮をし、スムーズな運営に貢献した。また、人間関係などで悩みやすい部員には、自らの体験を基に厳しく、または優しく寄り添い精神的支えとなった。さらに、来校者に礼儀正しく迅速に対応する姿は、他の部員への模範となった。選手が集中して練習に取り組める環境づくりに大いに貢献した。献身的な働きは、選手全員から信頼され、選手の一員として勝利を分かち合ってきた。

かながわ部活顧問賞 3名

生徒の活動を支え、積極的に部活動に取り組んだ部活動顧問に感謝する「先生、ありがとう！」賞

No	学校名	部名等	受賞者名	功績・実績等
1	県立厚木北高等学校	サッカー部	中村 元彦	熱意にあふれる指導で多くの部員をまとめ上げ、現役の部員はもちろんのこと、OBや保護者からも信頼を得ている。効率的な練習メニューを考案する努力も惜しまず、例年チームを勝利に導き続けている。その高い指導力と、部員一人ひとりとしっかり向き合い接する人間力により、顧問と部員の間には深い信頼関係と固い絆を築いた。
2	県立大井高等学校	野球部	高橋 直也	部員1名という圧倒的な人数不足の状況からスタートしながらも、合同チームの形を取り、生徒が野球を続けていけるよう努めた。技術指導はもとより、人格形成も含め、1対1の対応を丁寧に行うことができる顧問である。今夏、2年ぶりに単独チームでの夏の大会出場を果たし、初戦で敗退したものの、すばらしい活躍ぶりをチームとして発揮した。
3	県立茅ヶ崎養護学校	アートオールスターズ同好会	三輪 和子	「アートオールスターズ展」への出展という機会を使って、生徒の内面から湧き出る思いを作品に表現させることや協働や役割を通して自己肯定感、効力感を育成している。生徒からの信頼はとて厚く、他の教員にとっても、日々、根気よく生徒と関わる姿は学ぶところが多く、特に若手教員の指導力向上に大きく寄与した。

かながわ部活インストラクター賞 3名

生徒の活動を献身的に支える優れた外部指導者に感謝する「さんありがとう！」賞

No	学校名	部名等	受賞者名	功績・実績等
1	県立川崎高等学校	書道部	橋本 麻希	長年本校で書道部の指導に携わり、生徒は書道大会で毎年賞を取るなど、実績を挙げている。優れた指導方法により漢字の苦手な生徒に対しても、やる気を起こさせ、書道を通して漢字を得意にさせ、自己肯定感を育成した。
2	県立厚木東高等学校	茶道部	井上 英子	茶道教授として茶道に精通するとともに、生徒へ誠意あふれる指導助言を的確に行い、本校においては、27年間の長きにわたり多くの生徒・職員を指導した。地域でも茶道教室の先生として活躍しており、本校茶道部の地域貢献活動も支えた。
3	県立厚木東高等学校	華道部	平本 明子	華道教授として華道に精通するとともに、生徒へ誠意あふれる指導助言を的確に行い、本校においては、平成8年より多くの生徒・職員を指導した。華道の普及・発展にも多大な貢献をしており、本校華道部の地域貢献活動も支えた。

かながわ部活サポーター賞 2団体と5名

部活動振興に貢献した保護者等の協力に感謝する「お父さん、お母さんありがとう！」賞

No	学校名	部名等	受賞団体・受賞者名	功績・実績等
1	県立旭高等学校	運動部・文化部	横浜市川井地域ケアプラザ	本校では、三ツ境養護学校と、長い間、部活動単位で、それぞれが交流をしていたが、平成24年度から横浜市川井地域ケアプラザ（以下「プラザ」）が間に入り、組織的な交流となり、日程調整及び会場提供、スタッフ派遣など活動が活性化された。特に文化部（美術部）における取組（写真立て工作）においては、プラザのスタッフによる養護学校生徒への対応によって活動をスムーズに進めることができた。
2	県立平塚商業高等学校	女子ソフトボール部	石渡 久佳	チームの成績発展に大きく寄与しており、地区大会で敗退していたチームをピッチングコーチの立場から建て直し、地区大会3年連続優勝、県大会でも上位進出を果たすなど、チームへの貢献度は非常に高い。生徒への技術指導だけに限らず、精神面でも支えとなり、さらに、指導を通してソフトボールの楽しさも教えた。
3	県立弥栄高等学校	運動部	保護者会	部活動について理解や協力はもちろんこと、特に文化祭等の行事などでは、PTAや運動部活動の保護者会が模擬店や部活動のPR活動を行い、熱心に協力した。さらに、そこで得た利益などを同窓会とPTAが所管する弥栄応援団基金に寄付を行い、日常の部活動などに活用できるよう貢献した。
4	県立厚木北高等学校	ヨガ同好会	伊藤 玲子	シンプルで解りやすく、会員の実態に合った内容で指導を行い、生徒のヨガに対する興味・関心を高めた。ヨガ同好会の立ち上げと同時に指導者として関わり、本校ヨガ同好会の定着に貢献した。気軽に参加できるエンジョイ系の部活動のモデルとなった。

5	県立厚木北高等学校	吹奏楽部	鈴木 孝文	吹奏楽部の応援をするために吹奏楽部保護者を立ち上げ、保護者会長として吹奏楽部の応援や保護者との調整役を担った。本校の部活動を常に陰から支えてくれている存在であり、部活動運営に大切な保護者やOB・OGとのコミュニケーションをとり、部活動の円滑な運営に貢献した。
6	県立大和南高等学校	生徒会・地域文化交流同好会	神谷 栄一	毎年本校の生徒と「凧」制作の指導や「凧揚げ」行事の参加にも協力した。今では本校に着任された初任の先生方の研修の場や剣道部、書道部、美術部、生徒会本部役員との地域交流活動の場、さらには近隣の上和田中学校美術部との中学高校の交流の場として、献身的な協力をした。
7	県立平塚盲学校	話芸部（落語）	山口 宣秀	現在の話芸部が同好会として活動していた3年前からボランティア指導員として週1回の活動に継続的に協力しており、その中で落語の基礎やその楽しさを部員に伝えた。落語に必要な話術だけでなく、人に話をするに対する姿勢や落語の話題に関連した様々な見識を深めていくことも大切にしながら指導・助言をした。



主催者あいさつ
県教育委員会 河野委員



感謝状贈呈
相鉄ホールディングス株式会社様へ贈呈

表彰式の様子





受賞者代表あいさつ



グランプリ受賞校代表者
県立厚木東高等学校
生徒会長 鈴木 彩音 さん



個人賞受賞者代表
県立平塚商業高等学校
女子バレーボール部 長谷川 楓 さん



記念撮影